

「頑張っているからね」遺族が現場で献花 歌舞伎町ビル火災 22年

8/31(木) 23:56 配信

朝日新聞

DIGITAL

[現場を訪れて献花した植田安子さん=2023年8月31日午後10時18分、東京都新宿区歌舞伎町1丁目、増山祐史撮影](#)

44人が犠牲となった東京都新宿区歌舞伎町の雑居ビル火災は、9月1日で発生から22年となる。8月31日夜には遺族らがビル跡地を訪れて献花し、静かに祈りを捧げた。

[【写真】歌舞伎町火災で亡くなった娘 残した幼子、22年経て知った母の思い](#)

31日午後10時すぎ。長女（当時26）と次女（当時22）を失った植田安子さん（71）は「今年も来たよ。頑張っているからね」と手を合わせた。火災発生後は月命日に必ず訪れていたが、ここ数年は体力的に厳しくなり、年1回の訪問になった。「いつまでできるかわからないけど、できる限り来たい」と話した。

火災は2001年9月1日未明に発生。3階のマージャン店と4階の飲食店にいた客や従業員ら44人が死亡した。

警視庁が放火の疑いも視野に捜査したが、出火原因は分からないままだ。建物内の避難経路に多くの荷物が置かれていたことが被害を拡大した一因とされ、消防法の改正につながった。ビルは06年に解体され、現在は別の建物になっている。（増山祐史）

# 娘が残した命 共に歩んだ日々

東京・歌舞伎町で2001年に起きた火災で、新潟県佐渡市の小杉三船さん(78)は次女(当時23)を失い、次女が残した幼子を育ててきた。次女によく似たその子は28歳になり、母になった。あの日から22年。2人は怒りと疑問を抱えながら、前を向いて歩いてきた。

## 歌舞伎町ビル火災22年



生前の次女・千帆さんと孫の写真を手にする小杉三船さん。千帆さんは22歳ぐらいい孫は3歳ぐらいい26日、新潟県佐渡市

## 4歳だった孫娘 今は1児の母に

小杉さんの次女、千帆さんは佐渡島で生まれ育った。4人きょうだいの末っ子。猫が好きで、自分の給食をこっそり持ち出して野良猫にあげる優しい子だった。

地元の中学を卒業し、富山県の紡績工場で働きながら定時制の高校に通った。やがて女の子を授かり、結婚。20歳になると、動物病院の看護師になることをめざし、東京へと向かった。

千帆さんから「歌舞伎町のキャバクラで働く」と伝えられた時、小杉さんは反対した。ただ、「学費を稼ぐための手段だから」と言われ、その思いを尊重した。



### 歌舞伎町ビル火災

2001年9月1日未明、東京都新宿区歌舞伎町の雑居ビルから出火し、飲食店やマージャン店の客ら44人が死亡し

01年9月1日の朝。勤務先でテレビを見ていた小杉さんの目に、灰色となった歌舞伎町のビルの映像が飛び込んできた。「まさかね」。そう思った矢先、携帯電話が鳴った。長男は言った。「千帆の働いていた場所かも」。声は震えていた。

「何かの間違いだ」。小杉さんはそう祈りながら、新潟港行きの船に飛び乗った。夕方、長男からの電話で、千帆さんらの電話で、千帆さんが火災に巻き込まれた可能性が高いことを伝えられた。そこから先の記憶はあまりない。

東京で対面した千帆さんにやけどの痕はなく、寝ているかのようなきれいな顔だった。小杉さんは火葬場で、「何もしてあげられなくてごめんね」と心の中で叫び、こう誓った。「悲しい涙は今日まで。あなたが残した命だけは、大切に育てるから」。孫は4歳。母が亡くなったことは聞かれなかった。ただ、買物や夜中にトイレに行く時、1人になるのを極端に嫌がった。「あの子なりに何か異変を感じ取っていたのかな」と思う。しばらく経って、孫と一緒に育てていた長女夫婦から、「ママ、お空に行ったんだよね」「ママに会いたい」と孫がせがんでいたことを聞かされた。

「にしたい」と思った。火災現場で一緒に手を合わせたのは初めて。千帆さんが天国で喜んでくれているような気がした。

1日で火災発生から22年になる。多くの防火対策の不備が露見し、ビルの実質的オーナーらが刑事裁判で有罪判決を受けたが、詳しい出火原因は分からないままだ。小杉さんは「大切な我が子を失った怒りと疑問が消えたことはない」と言う。

その孫は1児の母となった。小杉さんは「火災のことを少しづつ受け止めて、前に進もうとしていた22年だったと思えます」と思いやる。

孫は高校まで佐渡で過ごし、介護福祉士になるため東京の専門学校に入った。千帆さんが鳥を出た年齢とはほぼ同じ。物静かで思慮深い性格、笑った時の目元。小杉さんは「そっくりで、孫をつい『千帆』と呼んじやう」ともあった」と言う。

小杉さんは19年、孫と一緒に歌舞伎町を訪ねた。「娘が必死に生きていた証しを忘れないよう

(増山祐史)